

令和6年(2024)3月26日発行  
『大倉山論集』第70輯 抜刷  
(公益財団法人 大倉精神文化研究所)

## ブラフモ・サマーシ関係文献紹介

(附 関係文献目録)

白 田 雅 之

# ブラフモ・サマーヅ関係文献紹介

(附 関係文献目録)

白 田 雅 之

## 目 次

- 1 本稿の目的
  - 2 ブラフモ・サマーヅと精神文化研究
  - 3 ブラフモ・サマーヅの軌跡
  - 4 ブラフモ・サマーヅ関係文献の分類と解説
- ブラフモ・サマーヅ関係文献 目録

## 1 本稿の目的

本稿は、このたび筆者が大倉精神文化研究所図書館に寄贈させていただいた、インドのブラフモ・サマーヅ関係文献183点（書籍・パンフレット181冊と草稿 2点）について、解題というほど完備したものではないが、その概要を紹介しようとするものである。したがって、本稿はこのささやかなコレクションの目録を参照しつつ読まれることを期待している。

筆者は1972年から1977年にかけて5年間、インドのカルカッタ大学に留学し、スワデシ運動（＝ベンガル分割反対運動）期（1903-08年）において、~~Aswinkumar~~組織的な活動を開いた地味指導者として研究し、その過程で、ドットがブラフモ・サマーヅという改革的宗教団体の影響を深く受けていることを知り、ブラフモ運動について文献蒐集を始めた。

コレクションは、カルカッタ（現コルカタ）留学時代に蒐集したものが

根幹をなしている。ことに最後の2年間、ベルギーのルーヴェン大学からの留学生、フランツ・ダーメン (Frans I. Damen) 神父に紹介されて、ブラフモ・サマーシの3分派の一つであるノボビダン (新摂理) の長老、ショティクマル・チャタジ (Satikumar Chatterji) 氏のもとに通い、話を伺う貴重な機会を得た。氏から頂戴した書籍、パンフレットもかなりある。謹厳で、しかもこの上なく優しかった〈ショティ・バブウ〉の面影は、ブラフモ信仰を体現していた。

ところで、大倉精神文化研究所は、創設者の大倉邦彦がタゴール (Rabindranath Tagore, 1861-1941) の三回目の日本滞在に際して私邸を宿として迎え入れた経緯があり、その返礼としてタゴールのベンガル語の著作が贈られ、それを核にタゴールに関する資料がコレクションとして収蔵されている。

後述するように、タゴール家はブラフモ運動の中心の一つであり、詩人タゴールを理解するには、ブラフモ・サマーシの信仰と運動を知ることが不可欠である。その意味で、このコレクションは、本研究所のタゴール・コレクションを補完して、一つの資料群を形成することにもなる。

## 2 ブラフモ・サマーシと精神文化研究

ブラフモ・サマーシは、19世紀インドの宗教・社会改革運動において先導的・中核的な役割を果たした宗団である。周知のように、インドの独立運動は、マハトマ・ガンディーに指導された非暴力運動という特異な形を取って展開された。それはきわめて宗教的な風土と目されているインドならではの運動であったと理解されている。しかし、最近のインドのイメージは様変わりしてきており、インドを論じる本のタイトルにも、『インド・剥き出しの世界』(田中雅一ほか編、2021年)のように、これまで背景にあった〈闇〉の部分が前景化しつつあるのが見て取れる。詩人、清水茂が述べたように、「この二十世紀後半の数十年は人間の魂の観点からすれば、とりかえしのつかない没落の時代である<sup>(3)</sup>」ことも、倫理的なブラフモ・サマーシへの関心が薄れていることと関係しているように思われる。

インドのイメージが変わっただけではなく、インド人の生活も精神も大きく変化した。この変化をどう見るか。ガンディーやタゴールのような高貴な精神は、深い闇のなかから輝き出た光であり、非暴力は凄まじい暴力の地があって意味を持つのだともいえる。それにしても、筆者が留学生生活を過ごした1970年代のカルカッタには、まだ高貴な精神の余香を感じることができた。高貴な精神は、政治的な信条とは関わりがなかった。保守的な人にも高貴な人はおり、進歩的な人のなかにもいた。宗教的な人のなかにも、世俗的な人のなかにもいた。そして、とくに高貴でもなんでもない普通の人のなかにも、高貴な精神を尊ぶ気風が感じられた。

それは独特な精神文化であり、それを醸成していったものこそ、ブラフモ・サマージであった。タゴールはブラフモ・サマージの運動を産み出した家に生まれ、家の信仰のうちに生きた。タゴールだけではない。かなりの知識人がブラフモ・サマージの影響を受けたのである。近代日本の知識人の多くが若いころキリスト教会に通い、長じて次第に教会からは離れていったけれども、それを通じて近代西洋文化を吸収することになった。こうした人々を武田清子は「卒業クリスチャン」<sup>(4)</sup>と呼んだ。日本のキリスト教と同じ働きを、ベンガルではブラフモ・サマージが果たした。つまり、ベンガルにも多くの「卒業ブラフモ」がいたのである。かれらを通して、インドの他の地域にも、北西インド中心に組織を広げたアーリヤ・サマージや、中央インドはマハーラーシュトラのプラールトナー・サマージ、南インドはアーンドラのヴィーラサリンガムの活動に見られるように、その影響は広く及んだ。ガンディーに似通うような人物もベンガルには現れている。インドの近代精神文化を理解するためには、ブラフモ・サマージを避けて通ることはできない。

ここで、日本におけるブラフモ・サマージ研究を振り返っておくことにしよう。ブラフモ・サマージは、精神文化それ自体としてよりは、社会経済史的な関心から注目されたのである。

具体的には、ブラフモの留学生は、20世紀になると来日するが、ブラフモ・サマージは神智協会のように注目されることはなかった。1950年代後

半になって、本格的に開始されたインド史研究の立場から、またマックス・ウェーバーの『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』に触発されて、経済学者がカルヴィニズムに相当するものとして、ブラフモ・サマーの倫理性に着目した。前者は荒松雄氏の「十九世紀におけるインドの改革運動」(1971年)に結実し、後者は板垣興一氏の「ブラフモ・サマー<sup>(6)</sup>運動」(1962年)として発表された。

その後、前述のように、精神性、倫理性への関心の後退があって、ブラフモ・サマーへの関心は急激に後景化していった。しかし、インド史の近世から近代への展開にとって、ブラフモ・サマーが重要な位置を占めていることは確かである。同時に、精神文化への関心が後退している時期こそ、それへの関心は静かに深められなければならないだろう。

このコレクションは、膨大な文献を産み出したブラフモ・サマーの関係資料の九牛の一毛でしかなく、研究への手引きをなすにすぎない。アディ・ブラフモ・サマー関係資料は、詩人タゴールの甥で同サマーの管財人を務めたキティンドロナト・タゴール (Kshitindranath Tagore, 1869-1937) の蔵書が、タゴール邸に設立されたロビンドロ・バロティ大学図書館に収蔵されているなど、タゴールゆかりのビッショ・バロティ、ロビンドロ・バロティ両大学の図書館を探索すべきだろう。なお特筆すべきは、アディ・ブラフモ・サマーの機関誌 *Tattvabodhini-patrika* (『真如雑誌』) が、東京外国語大学の図書館に、1848年度から1933年度まで所蔵されていることである。

ケシヨブ・シェーンのノボビダン関係資料を中軸としたブラフモ・サマー関係資料は、シヨティクマル・チャタジ氏が生涯をかけて収集された。その実物は同氏の死後、ビッショ・バロティ大学の図書館に寄贈され、本コレクションの Manuscript 01. はその目録である。

ブラフモ・サマーの一番新しく、最大の分派であるシャダロン・ブラフモ・サマーは、ビダン・シヨロニ (旧コーンウォーリス・ストリート) の会堂に図書館を付設しており、地方支部の刊行物も所蔵している。

最後に断わっておかなければならないのは、ブラフモ・サマーが主に

教育を受けた中間層の組織であり、前衛的な性格のものだという点である。大衆は長いこと置き去りにされ、歴史研究においても、近年やっと本格的な探求の緒に着いたばかりである。大衆の精神史は今後の大きな課題になる。とはいえブラフモ・サマージには、ベンガルその他の被抑圧階級への働きかけ（I-A-15）、またインド東北の少数民族地域への布教活動（I-A-16）など、大衆との接点を求める働きかけも存在した。ブラフモと共産主義運動との関係も、この観点から検討する必要があるだろう。

### 3 ブラフモ・サマージの軌跡

ブラフモ・サマージは、インドの近代を推進する原動力の一つとして、1828年に、〈近代インドの父〉と称せられるラームモーハン・ローイ（ベンガル語読みでは、ラムモホン・ラエ/Rammohun Roy = Rammohan Ray, 1774-1833）によって創設された、唯一神信仰、偶像崇拜拒否を宗旨とし、ヴェーダを聖典とする、ヒンドゥー教の改革宗派だというのが通説である。

しかし、2022年に刊行された『アジアのかたちの完成』（集英社）所収の拙論「インドにおけるイギリス統治時代の近代化と伝統回帰」で、筆者は通説とは異なる考え方を提示した。まず、近世と近代の分水嶺を、インド大反乱（セポイの乱、1857-58）に置いたので、1833年に没したローイは、当然近世を生きた人ということになる。その彼が〈近代インドの父〉と呼ばれるのは、近世末期にあって近代を構想した人だからである。ローイは理念的にブラフモ・サマージを構想し、集会（ブラフモ・サバー）も開いたが、運動として展開する以前に渡英し、その地で没した。ブラフモ・サマージを運動体として組織したのは、詩人タゴールの父、デベンドロナト・タゴール（Debendranath Tagore, 1817-1905）であった。1843年のことである。いわばブラフモ・サマージの開祖はラームモーハン・ローイ、宗祖はデベンドロナト・タゴールということになろう。この理解はショティクマル・チャタジ氏の考えを継承している<sup>(8)</sup>。1840年代後半、ブラフモ・サマージは、ヴェーダの無謬性をめぐって揉めた。信に重きを置く父タゴー

ルは聖典としてのヴェーダの無謬性の上にブラフモ信仰を据えることを望んだが、キリストの神性を否定したローイの理性尊重を受け継ぐ会員はそれを批判し、ベナレスに研究チームが派遣され、結局ヴェーダ無謬説は放棄された。これは社会的には、ヒンドゥー社会体制の受容に傾く大資産家である父タゴールと、それに批判的なスタンスの若手会員との潜在的な対立の構図となった。同時にその対立は、インド古典思想の復興を志向する立場と西洋思想を積極的に受容しようとする立場との対立に重なる。19世紀後半におけるブラフモ・サマージの2回の分裂も、その延長上に生じたのである。それは近代インド精神史を貫くフォッサ・マグナであった。

亀裂が最初に姿を現すのは、ケショブ・シェーン (Keshabchandra Sen, 1838-84) が、ブラフモ・サマージで頭角を現した1860年代前半のことである。シェーンを中心にした若手グループは、カースト差別に反対し、異カースト間の結婚・寡婦再婚を推進するなど、保守的な父タゴールには到底受け入れられない行動を起こした。さらに、キリスト教に親和的なシェーンの言動は、父タゴールには不快であった。その結果、1866年、ブラフモ・サマージは分裂し、シェーンはインド・ブラフモ・サマージ (Brahmo Samaj of India) を名乗った。これは英領インド (British India) を名乗らず、ただインドと名乗った最初の団体であり、ナショナリズムの高揚の先駆けとなる命名であった。タゴール家を中心とするグループは、アディ・ブラフモ・サマージ (根本ブラフモ・サマージ) を名乗った。

1870年代前半は、シェーンの全盛期であり、彼は社会改革運動に獅子奮迅の取り組みを見せ、諸宗教の建築要素を取り込んだ教会堂で行う説教には、多くの若い知識人が聴聞した。その様子は、タゴールの長編小説『ゴーラ』にも出てくる。また、渡英し、その雄弁はヴィクトリア女王をはじめとする多くのイギリス人を魅了した。

しかし、西洋かぶれと思われていたシェーンは、次第に信仰における修行を重要視するようになり、それはヒンドゥーイズムの要素の取り込みに繋がった。その過程で、シェーンたちはドッキネッショルの聖者ラーマクリシュナを見出し、世間に紹介した。<sup>(10)</sup>これは社会的に保守的なスタンスを

取ることを意味した。

1877年秋から、シェーンの長女シュニティとクーチビハールの若い藩王との縁談が進んでいることが漏れ、物議を醸した。ティーン・エイジに達したばかりの娘の結婚は、シェーンの肝煎りで法制化された1872年の特別婚姻法（通称、ブラフモ婚姻法）に定められた女性の最低結婚可能年齢14歳に悖ることが非難的になった。シェーン側は、行われるのは婚姻ではなく、婚約であるとして翌年挙式を敢行した。サマージは大混乱に陥り、1878年にはこの縁組を糾弾するグループは分裂して、シャダロン・ブラフモ・サマージを結成した。少数派となったシェーン派は、1880年、自派をノボビダン（新摂理）<sup>(11)</sup>と改称した。

シャダロン・ブラフモ・サマージの活動は、社会・政治運動において顕著であり、ノボビダンは修行や精神文化面に見るべきものがあった。ベンガルの地方小都市やインド各地の都市に、官吏、教員、ジャーナリスト、技術者などとして赴任したベンガル人のなかには、ブラフモやそのシンパがかなり存在しており、かれらはブラフモ・サマージの支部を結成した。同じ人たちは民族運動の担い手でもあり、国民会議の支部を結成した。いわばブラフモ・サマージの運動が、民族運動に先行したのである。実際、初期の国民会議の指導者にはブラフモやそのシンパが目立った。パンジャープやマハーラーシュトラでも、ブラフモ・サマージあるいはその影響を多分に受けた宗教団体が、同じ役割を果たしている。

民族運動はたんなる政治運動ではなく、精神・文化運動でもあった。その性格が鮮明に表れたのが、1903年から8年にかけての स्वादेश 運動（＝ベンガル分割反対運動）であった。そして、このころまでがブラフモ・サマージの運動としての全盛期であった。インド社会の現状に批判的であったブラフモ・サマージは、「自国ファースト」のナショナリズムが本格化すると後景化を余儀なくされた。社会改革運動の側面は、第1次世界大戦後はより尖鋭なコミュニズム運動に取って代わられた。ブラフモからコミュニストになったケースもあり、コミュニスト運動のあり方に一時期、高貴な精神性を付与することにも寄与したように思われる。

#### 4 ブラフモ・サマーシ関係文献の分類と解説

寄贈したブラフモ・サマーシ関係文献は総数183点だが、その構成については目録冒頭の凡例で示したとおりである。重複を厭わず、構成を示したうえで、ジャンル別に簡単な解説を試みたい。

##### 1、分類

ブラフモ・サマーシ関係文献は、〔形状〕—〔言語〕—〔内容〕の順で分類した。

まず〔形状〕では、【Publication（書籍・パンフレット）】と【Manuscript（草稿）】に分類した。

次に【Publication】を〔言語〕別に分類し、以下のように区分した。

- I English（英語文献）
- II Bengali（ベンガル語文献）
- III Japanese（日本語文献）

そして、English（英語文献）とBengali（ベンガル語文献）は、内容によって以下の5つに分類して、項目ごとに番号をふった。なお、英語文献は大文字、ベンガル語文献は小文字で表記した。

- A/a General（ブラフモ・サマーシ全体に関わる文献）
- B/b Rammohun Roy（ラームモーハン・ローイに関わる文献）
- C/c Devendranath Tagore & Adi Brahma Samaj（アデイ・ブラフモ・サマーシに関わる文献）
- D/d Keshabcandra Sen & Brahma Samaj of India / Navavidhan（ケジヨブ・シェーンとインド・ブラフモ・サマーシ／ノビダンに関わる文献）
- E/e Sadharan Brahma Samaj（シャダロン・ブラフモ・サマーシに関わる文献）

本稿では、各項目の文献を上記の分類にしたがって、次のように略記する。例えば、I -B-05は、I「English（英語文献）」のB「Rammohun Roy（ラームモーハン・ローイに関わる文献）」のうち、5番目に収録さ

れている「Publication（書籍）」を指す。

## 2、解説

以下、各分類の項目について、ジャンル別に解説を記していく。

### I-A（ブラフモ・サマージ全体に関わる英語文献）

総説にまず取り上げたのは、シャダロン・ブラフモ・サマージの指導者シブナト・シャストリ（1847-1919）による通史（I-A-01）とノボビダンのプロシャントクマル・シェーン（1874-1950、法廷弁護士、カルカット大学法学部教授、パトナー高裁判事などを歴任）の通史（I-A-02, 03）である。これらは、ブラフモ・サマージ研究に際してまず参照すべき文献であろう。アディ・ブラフモ・サマージは、タゴール家の〈家の宗旨〉の性格が強く、本格的な通史は刊行されていない。なお、ノボビダンの法灯を最後まで守ったショティクマル・チャタジ氏には、英語で表したブラフモ・サマージ小史がある。2018年にリプリントが出されているが、本コレクションでは1970年代半ばに頂戴した草稿を収める（Manuscript 02）。シブナト・シャストリの通史は、支部の活動の概説も収めており、利用価値が高い。

ブラフモ・サマージ全般にかかわる研究書としては、KopfとDamenの書（I-A-04, I-A-05）がある。Kopfの関心は広くベンガル近代精神史に及ぶが、そのブラフモ・サマージ研究については、竹内啓二氏の紹介がある。<sup>(13)</sup>カトリックの神父Damenが論じるのは、ケショブ・シェーンのインド・ブラフモ・サマージが中心であり、シャダロン派とケショブ没後のノボビダン派は対象外である。最近、19世紀後半のロンドン宣教協会の宣教師Thomas Ebenezer Slater（1840-1912）が著した、キリスト教の観点からブラフモ・サマージ史を論ずる書が復刻された。<sup>(14)</sup>

その他は小冊子が多いが、内容は、ブラフモ・サマージの展開したさまざまな活動の報告書（I-A-06, 08, 13）と、教義、使命、礼拝、儀礼、修行などを要約した小冊子類（I-A-09, 10, 11, 12, 14）である。

I -A-09, 10, 14はシャダロン派の著作、I -A-11はノボビダン派の著作、I -A-12はノボビダン派ではあるが、宗派にとらわれていない立場で書かれている。なお、I -A-11は1893年の有名なシカゴ世界宗教会議における演説原稿である。

I -A-07, 17は信徒への呼びかけ。17は1880年のノボビダンの創設に際して行われた演説で、ノボビダンがブラフモ・サマージの正当な継承組織であることを宣言したもので、のち手直しされて、P. C. モジウムダルのブラフモ・サマージ論 (I -A-18) の1章として収められている。

I -A-15, 16は布教活動を扱い、I -A-19, 20は指導者の小伝集成で、19は20の復刻本である。

I -A-18, 21, 22は、小史を内蔵した概論である。I -A-22は竹内啓二氏の博論に基づいた論著、日本語のラームモーハン論 (Ⅲ-01) はこれを参照して書かれている。

## I -B (ラームモーハン・ローイに関わる英語文献)

ラームモーハン・ローイは、ブラフモ・サマージの開祖にとどまらず、「近代インドの父」と称せられるように、その影響は全インドに及んでいる。そのため、英語で書かれたローイの研究書は多い。<sup>(15)</sup>

まず、その著作から見ていこう。

I -B-01~05は、1945年から1951年にかけて、シャダロン・ブラフモ・サマージから出版された英文著作集であり、現在のところ、もっとも網羅的な著作集である。

I -B-09は、ローイの多岐に渉る著作からエッセンスを抜粋した編著であり、ローイ自身の著作に基づいて、その活動の全容をうかがうのに適している。

I -B-20も英文著作集だが、ローイのペルシア語で書かれた処女出版の英訳を含んでいる点で貴重である。I -B-32は、アメリカ人研究者が上梓した、ローイのものと言われる反偶像論。I -B-33はローイ作の唯一神を賛美する歌詞を、ベンガル語から英訳したものである。

次は、書簡集、資料集である。I -B-14, 15は、同一編者が関わる、姉妹編とも称すべき資料集で、利用価値が高い。I -B-14は1938年刊の同一編者による *Selections from official letters and documents relating to the life of Raja Rammohun Roy* の表題を少し変更した復刻だと思われる。Jatindra Kumar Majumdar には、さらに本コレクション未収の2冊のローイ関係の編書がある。1939年出版の *Raja Rammohun Roy and the last Moghuls : a selection from official records, 1803-1859*、および1975年出版の *Raja Rammohun Roy and the world : annals of the rise & progress of Rammohun Roy's reform movement at home, and its fraternisation & influence abroad* である。

つづいて、ローイの生誕あるいは逝去を記念した論集を見ておこう。1933年は没後100年にあたり、ブラフモ・サマージもまだ衰退はしていなかったため、いくつもの記念事業が組まれた。I -B-06は記念事業の全容を記録した大冊、当時の代表的知識人たちのローイ観を知ることができる。I -B-27はそのとき出版された記念論集。I -B-17は1972年の生誕200年から、ラージャー・ラムモーハン・ローイ図書館基金が始めた毎年の記念講演を、年代順に配列した論集。I -B-19は、ノボビダン派の出版した生誕二百年記念小冊子。

ローイの伝記としては、I -B-07, 08, 23, 25があげられる。

I -B-07はタイトルページが失われ、著者、出版社、出版年が不明だったが、参照文献の年代、総ページ数、紙質などからの絞りを絞って、Upendranath Ballが1933年に出版した本であることを突き止めた。内容の充実した、信頼できる良書である。Ballはビハールの州都PatnaやパンジャープのLahoreのコレッジで教授を務めた学者で、マラータ史やムガル史の著書があり、インドの自治についても論じ、1828年から1928年までの最初の一世紀間のブラフモ・サマージ史<sup>(16)</sup>も著している。シャダロン派のブラフモであるが、人名辞典に記載がないのが、奥付が失われている点も含め、その要因が気になる。

I -B-08は、シャダロン派の経営するCity Collegeの学長を務めた著者

による、時期区分とテーマ別配列を巧みに組み合わせた浩瀚な著述。

I -B-23は、全3巻中の第2巻と第3巻の合本で、1823年半ばから1830年秋までを第2巻が扱い、それ以降逝去にいたる3年間を第3巻が扱う、興味深い時期区分に基づいて、近代インドの形成を論じる創意に富む研究書。

I -B-25は中央政府出版局刊行のBuilders of Modern India叢書の1冊。

最後に、さまざまな観点からの論著、論集を見ることにする。I -B-10, 11, 12, 13, 16, 18, 21, 22, 24, 26, 28, 29, 30, 31が該当する。

I -B-10は同時代のローイ論の集成。

I -B-11, 12, 13は、これまでの代表的ローイ論の集成。

I -B-16は、ローイの時代と倫理観を論じる。

I -B-18は、当時の宗教・社会状況にローイを位置づけ、その後の展開を概観する。

I -B-21は、多岐に渉るローイの活動を項目別に論じる。

I -B-22は、アメリカにおけるローイの受容をまとめる。

I -B-24は、インド経済とローイの関りを論じた画期的な論考。著者は現代インドを代表する史家の一人、Sumit Sarkarの父。

I -B-26は、ブリストル（ローイの逝去地）でローイに出会ったユニテリアン教育家Mary Carpenter（1807-1887）が、イギリスにおけるローイの活動とその意義を証言した著作。

I -B-28の著者は、詩人タゴールの長兄の曾孫、スターリン主義に反対した共産主義者。近代インド形成におけるローイの役割をポジティブに論じる。

I -B-29の著者コレット（1822-1894）は、ブラフモ・サマージと深く関わったイギリス人自由思想家。そのよく知られたローイ論。所収本には装丁に混乱がある。

I -B-30は1970年代の代表的知識人によるローイ論の集成。とくにAshis Nandiのサテイー論は新鮮であった。

I -B-31は、ローイからガンディーまでを、復興するインドの精神史として論じた書。

## I-C (アディ・ブラフモ・サマージに関わる英語文献)

I-C-01は、アディ・ブラフモ・サマージのカリスマ的指導者で、大聖(モホルシ)と称せられたデベンドロナト・タゴール(1817-1905)のベンガル語自伝の英訳。訳者のSatyendranath Tagore(1842-1923)は、その次男、インド人として初めてインド文官職(ICS)に任官した人である。

I-C-02は、ブラフモイズムの教義をまとめたデベンドロナト・タゴールの著作の英訳。

I-C-03は、文学アカデミー(Sahitya Akademi)の叢書《インド文学を作った者たち(Makers of Indian Literature)》の1冊、デベンドロナト・タゴールの伝記である。

## I-D (ケショブ・シェーンとインド・ブラフモ・サマージ／ノボビダンに関わる英語文献)

ノボビダン(1880年まではインド・ブラフモ・サマージ)は、ケショブ・シェーンの魅力を取り巻いて形成された宗派だといえよう。

このグループは4つのジャンルに分けられる。

- ① ケショブ・シェーンの著作／講演録(I-D-01, 07, 09, 11, 12, 15, 19, 20, 21, 22)

イギリス人を驚嘆させた演説家シェーンの著作は、もともと講演であったものが少なくない。

I-D-01は、1866年から1885年のあいだ、マーズ月(1月)のブラフモ・サマージ創立日に行われた講演を軸に構成された大冊である。演題を見るだけでも、時代精神をうかがうことのできる文献。

I-D-07は、高い宗教的境地へ導くことを目的とするベンガル語講演の英訳。I-D-09はI-D-07と同じ講演の異なる訳者による英訳。

I-D-11は、1880年2月から10月にかけて行われた講演の集成。主題は代表的な宗教人の伝記や教説。ベンガル語からの英訳。

I-D-12は、1876年2月から7月にかけて行われた、ヨーガとバクティ(熱烈信仰)に関するベンガル語講演の英訳。

I -D-15は、ノボビダン（新摂理）に関する言及の集成。

I -D-19は、講演と著述から8篇を選んで出版したもの。

I -D-20は、掌中版の、厳選された祈祷集。シェーンは祈りの人であった。

I -D-21は、ノボビダンに関する言及を集成した本の第2巻。

I -D-22は、01の原形。I -D-01よりも5章少ない15章からなる。この本の成長過程を考えるのも面白いテーマとなるかもしれない。

② ケショブの伝記／言行録もしくはケショブ論（I -D-02, 03, 04, 05, 06, 08, 17, 24, 27）。シェーンの伝記あるいは言行録、もしくはシェーンに関する論考を一括りにした。

I -D-02は、シャダロン派から自己批判してシェーンを見直した人のシェーン論、結果的にブラフモ・サマーシ史の見直しとなっている。著者はイギリスで農学を学び、教授職、行政職に就いた<sup>(17)</sup>。

I -D-03, 04は、シェーンについての評、悔やみ状、賛辞の集成。英語が多数を占めるが、ベンガル語のものも収められている。

I -D-05は、タゴールの学園シャンティニケトンの教授、学長を務めた哲学者による、シェーン生誕百年を記念して出版された伝記。

I -D-06は、1870年のシェーンのイギリス滞在の記録。

I -D-08は、オーストラリアの女性学者・外交官による伝記。

I -D-17は、シェーンの没後まもなく書かれた伝記。著者はノボビダンを代表する論客。諸宗教の融合を目指したシェーンは、4人の弟子にそれぞれヒンドゥー教、仏教、イスラーム、キリスト教を研究する任務を与えた。キリスト教研究の任務を与えられたのがモジウムダルであった。

I -D-24は、ヒンドゥー教研究の任務を与えられたゴウルゴビンド・ラエが、シェーンの宗教を〈インスピレーションの宗教〉として解き明かした書。

I -D-27は、シェーンの年譜を記す17ページのパンフレット。

③ ノボビダン関係のさまざまな活動に関する文献（I -D-13, 14, 18, 25, 26, 28, 29, 30）

I -D-13は、ノボビダン派の同名の週刊機関誌。1929年6月13日号から同年12月26日号までの合冊（ただし欠号あり）。I -D-14は、I -D-13と同じくノボビダン紙の合冊。1935年1月3日から10月3日号まで。ただし欠号があり、乱丁もある。

I -D-18は、礼拝式次第。29頁の掌中版。

I -D-25は、ハンディなノボビダン史。

I -D-26は、パンジャープのノボビダン派の信者が信仰心を吐露した小品を集めた小冊子。

I -D-28は、1957年のノボビダン出版委員会の出版物のリスト。

I -D-29は、シェーンと近代ヒンドゥー教を代表する聖者ラーマクリシュナとの関係を論じた書。

I -D-30は、シェーンと対立した人たちのシェーン論を集成した書。

#### ④ その他（I -D-10, 16, 23, 31）

I -D-10は、1872年、シェーンによって、ブラフモ・サマージひいては近代インドの理想的な家庭のモデルとして設立されたアーシュラムについての簡にして要を得た紹介。

I -D-16は、クーチビハール婚姻（ノボビダンの文献なので「婚約」と称している）におけるケショブ・シェーンを擁護した書。

I -D-23は、P. C. モジウムダルが霊（spirit）についてアメリカで出版した本の、インドにおける復刻。

I -D-31の著者、モヒトチョンドロ・シェーン（1870-1906）は英文学の教授で、ノボビダンの演説家として聞こえ、名著 *The Elements of Moral Philosophy*（『道徳哲学入門』）を残し、タゴールの詩の編纂にも携わり、スワデシ運動にも参加した。その生誕百年記念出版である。英訳したムンダカ・ウパニシャッドも収載されている。

#### I -E （シャダロン・ブラフモ・サマージに関わる英語文献）

I -E-01は、シャダロン派の精神的支柱であったシブナト・シャストリが、自派の週刊機関誌 *Tattwakaumundi*（『真理の月』）に掲載した宗教講話で、

Self-examination (自己点検) と題して小冊子に仕立てたもの。

I -E-02は、シブナト・シャストリの伝記。

I -E-03は、労働者の生活向上、女性教育など、多方面の社会活動を行い、暮らしの場に近代をもたらすべく尽力したブラフモ、ショシポド・ボンドッパッダエ (1840-1925) の小伝 (ボンドッパッダエは英語でBanerjiあるいはBanerjeeと綴られる)。

I -E-04は、息子によるショシポド・ボンドッパッダエの伝記。表紙落丁。

I -E-05は、20世紀の初め、ラール・パール・パールと称され、インド民族運動の急進派の領袖の一人であったブラフモ、ビピン・パール (1858-1932) の社会思想、政治思想をまとめた研究書。見返しに、出版当時 *Statesman* 紙に掲載された書評が貼付してある。

I -E-06は、パールによる、20世紀初頭の著名人の人物評をまとめた書。

I -E-07は、ベンガルのヴィシュヌ派を論じた書。多彩なパールにふさわしく、多方面から鮮やかに論じられている。

I -E-08は、1930年7月31日に、シャダロン・ブラフモ・サマージで行われた説教。

I -E-09は、民族主義史観に立脚した歴史家の代表格ともいべきムカジ夫妻による、民族主義運動家としてのパール論。

## II -a (ブラフモ・サマージ全体に関わるベンガル語文献)

II -a-01は、東ベンガル・ブラフモ・シオンミロニ (大会) の記録を集成したもの。1938年大会、1938年の50周年記念大会、1947-48年大会 (ベンガルおよびアッサム大会と改称されている)、1950年の75周年記念大会、1951年大会~1955-56年大会 (この間は毎年10ページ以下と薄くなっている) の記録が収録されている。末尾にカルカッタのシャダロン・ブラフモ・サマージ関係の講演が4篇、さらに1890年から1957年までの東ベンガル・ブラフモ・シオンミロニの会長、開催地、幹事を示した表も付されている。

II -a-02は、ダッカ・ブラフモ・サマージの設立者、プロジョシュンドル・ミットロ (1820-1875) の伝記。ダッカのブラフモ・サマージは、カルカッ

タの本部につぐ勢力があった。インド人官僚の最大の供給地であったダッカのビクロムプル郡は、またブラフモをも輩出したのである。自らもベンガル州政庁の官吏であったミットロは、寡婦再婚の推進、女子教育の発展、多重婚や飲酒などの悪習に対する反対運動など、積極的に社会改革に取り組んだ。著者ヘムロタ・シオルカルは、シブナト・シャストリの娘、カルカッタ市議会の最初の女性議員となった人である。

## II -b (ラームモーハン・ローイに関わるベンガル語文献)

II -b-01は、ベンガル語の著作を取めた面白い本だが、残念ながら表紙や目次はすべて失われ、33ページから始まっている。英語の著作に比べると、アット・ホームな雰囲気がある。

II -b-02は、シャダロン派の碩学によるローイ研究の大冊で、参照すべき文献。

II -b-03は、19世紀における代表的なローイ伝。著者はシャダロン派の宣教師。国民会議の重鎮 Surendranath Banerjee の側近としても活動した。

II -b-04は、*Rabindra Jibani* (『タゴールの生涯』全4巻)の著者 Prabhatkumar Mukhopadhyay<sup>(18)</sup> (1892-1985)による、時代背景をベースにして書かれた伝記。

II -b-05は、II -b-03の旧版(第4版、初版はベンガル暦1288年/西暦1881-82年)。体裁は異なるが、本文は同じ。

## II -c (アディ・ブラフモ・サマージに関わるベンガル語文献)

アディ・ブラフモ・サマージは、デベンドロナト・タゴール中心の宗団である。このグループの14冊の本は3つのジャンルに分けられる。

### ① デベンドロナト・タゴール関係 (II -c-01, 02, 03, 04, 06)

II -c-01は、デベンドロナトの伝記。著者オジットクマル・チョクロボルティ (1886-1918)は、32歳の生涯のうちに多方面の才能を示した。とくにタゴール文学を論じた、優れた2冊の本は今も読まれている。

II -c-02は、別の著者による伝記。シブナト・シャストリが序文を書い

ているが、そのなかで、シブナトは著者がデベンドロナトと面識があれば、もっと良いものになっていたろうと述べている。

II -c-03は、II -c-04の補遺。II -c-04は『ブラフモ教の解説』、1875年4月から1877年3月まで、アディ・ブラフモ・サマージで行われた講話の出版。

II -c-06は、デベンドロナトの行いを公私の別を問わず項目別にまとめている。

② ラジナラヨン・ボシュ関係 (II -c-07, 08, 09, 14)

宗派に関わりなくブラフモの長老として尊敬されたラジナラヨン・ボシュ(1826-1899)に関するもの。彼は民族運動と密接な関係があった。

II -c-07は、ラジナラヨン・ボシュの有名な自伝。

II -c-08は、メディニプルで、めざましい教育活動を展開したラジナラヨン・ボシュが著した『我々の教育と社会』。

II -c-09は、1846年から1860年のあいだに行われた演説のうち、神への礼拝と性格の矯正に関する16篇を集めたもの。

II -c-14は、ラジナラヨン・ボシュの生涯と文学について論じたもの。

③ それ以外 (II -c-05, 10, 11, 12, 13)

II -c-05は、ブラフモ・サマージとは直接関係がない。ダルカナト・タゴール (Dwarkanath Tagore, 1794-1846) はデベンドロナトの父、外遊先のイギリスで、その豪華な暮らしぶりからプリンスと称された事業家。ラームモーハン・ローイの盟友でもあった。その人の伝記。著者キティンドロナト (p.33328)に既出) は、デベンドロナトの三男ヘメンドロナトの次男。アディ・ブラフモ・サマージのために尽くし、長年その機関誌 *Tattvabodhini-patrika* (『真如雑誌』) 編集の任に当たった。サンスクリットに通暁する、タゴール家にふさわしい多才な人であった。

II -c-10は、タゴール家を中心にして、1868年から14年間、毎年1回開かれた民族主義の催し、ヒンドゥ・メラ<sup>(19)</sup> (ヒンドゥ祭) を、民族主義の史家ジョゲシュ・バゴル (1903-1972) が叙述した史書。

II -c-11は、ブラフモ・サマージの讚美歌ブランモ・シヨンギトを、手

短かに解説した書。

Ⅱ-c-12は、オッコイクマル・ドット（1820-1886）とデベンドロナト・タゴールを、散文の名手として対比的に描く。二人の関係は密であるとともに緊張をはらんだ、興味ある精神史の一コマである。

Ⅱ-c-13は、デベンドロナトの長男ディッジェンドロナト（1840-1926）が、アディ・ブラフモ・サマージの導師（アチャルジョ）として、1885年に行った9回の訓話を集めた書。

## Ⅱ-d（ケショブ・シェーンとインド・ブラフモ・サマージ／ノボビダンに関わるベンガル語文献）

このグループは、4つのジャンルに分けられる。

### ① ケショブの伝記、回想、讃仰の書（Ⅱ-d-01, 02, 03, 05, 10, 13, 15, 24）

Ⅱ-d-01, 02, 03は、ケショブからヒンドゥー教研究を託されたゴウルゴビンド・ラエ（1841-1922）による、3巻本の浩瀚な伝記。1938年のケショブ生誕百年記念出版。目次が精細なので、事典のようにも利用できる。

Ⅱ-d-05は、ケショブの亡くなった日の思い出。

Ⅱ-d-10は、10ページほどの小伝。冒頭に「誕生日」と題する、ケショブの詩を載せる。

Ⅱ-d-13のケショブの伝記の著者チロンジブ・シオルマは、ケショブから与えられた名。本名はトロイロッコ・シャンナル（1840-1916）。ノボビダンの楽士長、作曲家としてもすぐれていた。

Ⅱ-d-15は、ベンガル政庁の役人であった人によるケショブの伝記。生誕百年祭を記念した出版。見返しに著者のベンガル語の献辞がある。

Ⅱ-d-24は、ケショブの膝に抱かれて命名された女性による、ケショブの言葉の集成。付録として、著者の歌詞を載せる。

### ② ケショブの著述（Ⅱ-d-06, 11, 14, 25, 27, 28, 29）

Ⅱ-d-06は、Jibanveda（Ⅰ-D-07, 09参照）のベンガル語オリジナル。

Ⅱ-d-11, 27は、『導師の説教』第8巻（1877年の説教）と第11巻（1879年の説教）。1870年代前半、ケショブの説教は時代精神を体現していた。

II -d-14は、I -D-12のベンガル語原典。ヨーガとバクティ（熱烈信仰）が主題。

II -d-25は、ケショブの聖像（pratima）論。

II -d-28は、ケショブがヒマラヤ山中で毎日唱えた祈祷を、家族の者が書き留めたもの。

『集会』と題するII -d-29は、カルカッタ・ブラフモ・サマージ（第1回分裂前のブラフモ・サマージ）とインド・ブラフモ・サマージの信徒総会と信徒代表集会の記録。いずれの会もケショブのイニシアチブの下にあった。

③ ケショブ論（II -d-08, 18, 26）

II -d-08は、19世紀ベンガル文学におけるケショブ・シェーンとノボビダンについて考察した研究書。ケショブの著述やノボビダンの出版物についての詳しい情報が得られる。

II -d-18は、ケショブとベンガル文学の関係を、II -d-08よりは広い視野で考察した、独立前に出版された研究書。

II -d-26は、その当時の社会からケショブを考察した本。

④ その他（II -d-04, 07, 09, 12, 16, 17, 19, 20, 21, 22, 23）

II -d-04は、神と人間と天国を主題とした宗教講話。小冊だが、ブラフモの考え方がよくわかる。

II -d-07は、オリッサ（現オディシャ）のモユルバンジ藩王国の藩王に嫁いだ、ケショブの娘シュチャルウ・デビ（1874-1959）の伝記。詩、音楽、絵画にも非凡な才を示した人であった。クーチビハール藩王国の王妃シュニティ・デビの妹。

II -d-09は、ノボビダンの文献の出版、収集に尽力したショティクマル・チャタジ氏のノボビダンと仏教の関係を考察した研究書。見返しに、白田夫婦へ与える旨のショティ・バプウ夫妻の自署がある。

II -d-12は、Jivana-Vedaを簡潔に紹介した冊子。

II -d-16は、プロタブ・モジウムダル（P. C. Majumdar）の、女性への例話つき訓話。

II -d-17は、ノボビダンでナルウダ（ナルウ兄）と呼ばれて敬愛された、ケショブの甥プロモトラル・シェーン（1866-1930）の小伝。書簡の名人で、4巻の書簡集がある。

II -d-19は、1866年に初版が出た、世界の聖典から章句を集めた編纂本。諸宗教の融合を目指したブラフモ・サマージならではの事業。

II -d-20は、ケショブからイスラーム研究を託され、クルアーン（コーラン）のベンガル語訳も完成させ、モウルビ（イスラーム学者）と呼ばれたギリシュチョンドロ・シェーン（1635/6-1910）による、ムスリム苦行者の小伝集全6巻のうち、第4巻。

II -d-21は、仏教研究を託されたオゴルナト（1849-1881）の小著。献身的帰依者（bhakuta）ドウルヴァ、ブラフラーダ、デーヴァールシ・ナーラダを論ずる。

II -d-22は、オゴルナトの有名な仏教研究『釈迦牟尼伝と涅槃の理論』。

II -d-23は、ノボビダンの礼拝法を解説した掌中本。

## II -e（シャダロン・ブラフモ・サマージに関わるベンガル語文献）

このグループは、5つのジャンルに分けられる。

### ① 信徒の伝記（II -e-01, 02, 04, 07, 10, 11, 23, 25, 28）

II -e-01は、〈日本帰りのロマカント〉と言われたブラフモのロマカント・ラエ（1873-1906）を記念する出版。日清戦争後、日本へ渡ったインド人留学生の草分けであったロマカントは、スワデシ運動（＝ベンガル分割反対運動、1903-08）に活動家として飛び込み、その渦中で夭折した。鉱山学を学んでいた日本からの書簡も取められている。

II -e-02は、シャダロン派の経営するシティ・スクールの校長、シティ・コレッジの学長を務めたウメシュチョンドロ・ドット（1840-1907）を追悼した本。

II -e-04は、シブナト・シャストリの伝記。著者はその娘（II -a-02参照）。

II -e-07は、シャダロン派の聖者と言われた教育家ラムトヌ・ラヒリ（1813-1896）の息子の生涯を、彼を取り巻いた人々と環境のなかで描き出

す。

II -e-10は、電気生理学などの分野で創造的な業績を上げ、広く尊敬されたブラフモの科学者、ジョゴディシュチョンドロ・ボシュ（1859-1927）の伝記。

II -e-11は、シャダロン派の傑出した宣教師ビジョエクリシュノ・ゴシャミ（1841-1899）の伝記。著者はゴシャミがブラフモ・サマーシを離れ、ヨーガ・ダルマという宗門を開いてからの弟子。ゴシャミの生涯は19世紀インドの魂の遍歴の縮図であった。

II -e-23は、ビピン・パール（I -E-05参照）の生涯、文学、修道について叙述した大著。

II -e-25は、ゴシャミの伝記。これもヨーガ・ダルマ設立以後の観点からの叙述。

II -e-28は、シャダロン派の長老で、月刊誌*Modern Review*（近代評論）とベンガル語月刊誌*Prabashi*の主幹として、近代インドジャーナリズムを牽引した一人であるラマノンド・チャタジ（1865-1943）の伝記。著者のシャンタ・デビ（1893-1984）は、その娘で小説家・画家。

## ② 信徒の自伝（II -e-03, 09）

II -e-03は、シャダロン派の大立者で、〈平等・独立・友愛〉を標語としたベンガル語紙『シオンジボニ』（週刊）の主幹であったクリシュノクマル・ミットロ（1852-1936）の自伝。ミットロはスワデシ運動において、ブラフモ・サマーシ会員を中核とする Anti-Circular Society（1905年10月の学生・生徒の政治参加を抑圧する Carlyle Circular（回状）に反対する組織）の会長となった。彼は穏健派の活動家であったが、断固とした行動をとったため、1908年には、危険人物として、過激派の指導者と同様、2年間収監された。

II -e-09は、シブナト・シャストリの自伝。3種の異なる本を組み込んだ合冊。

## ③ 信徒の創作（II -e-06, 08, 14, 15, 22）

II -e-06は、シブナト・シャストリの長編詩。

Ⅱ-e-08は、同じくシブナト・シャストリの15篇からなる論文集。テーマは人物論、文明、社会、宗教と多岐に渡る。

Ⅱ-e-14, 15は、2巻本のシブナト・シャストリの小説集成。

Ⅱ-e-22もシブナト・シャストリの小説。

④ 論考・回想・講演（Ⅱ-e-05, 12, 13, 16, 17, 19, 20, 24, 26）

Ⅱ-e-05は、ビピン・パールの文学論を中心としたエッセイ。「スワデシとボイコット」といったエッセイも所収。

Ⅱ-e-12, 13は、晩年、伝統的なグルとなってからのビジョエクリシュノ・ゴシャミの、近侍した弟子による隋聞録。その第2巻と第4巻。

Ⅱ-e-16は、Ⅰ-E-06のベンガル語版。

Ⅱ-e-17は、シブナト・シャストリの未刊の講演と講演に関するメモ。

Ⅱ-e-19は、ビピン・パールが1908年の末から2年間、獄中で書いたベンガル語のエッセイを集めた本。収監中パールは*An Introduction to the Study of Hinduism*（『ヒンドゥー教研究入門』）を書いている。

Ⅱ-e-20には5編のエッセイと1篇の詩が収められている。

Ⅱ-e-24は、ブラフモ・サマージ脱会直前のビジョエクリシュノ・ゴシャミの、東ベンガル・ブラフモ・サマージにおける演説と説教を収載。

Ⅱ-e-26は、クリシュノクマル・ミットロ（Ⅱ-e-03参照）著の『ベンガル女性の抑圧』。

⑤ サマージに関わること（Ⅱ-e-18, 21, 27）

Ⅱ-e-18は、シャダロン派の中核とも言うべき、宣教師と活動家の組織シャドナスロム（1892年設立）の沿革をのべた小史。

Ⅱ-e-21は、東ベンガル（現バングラデシュ）・ブラフモ・サマージの小史。

Ⅱ-e-27は、ブロンモ・シオンギト（ブラフモ・サマージの讃美歌）集。

Ⅲ（日本語文献）

Ⅲ-01は、竹内啓二氏の修論、博論に基づく、ラムモホン・ラエ（ラムモハン・ローイ）を主軸にして、デベンドロナト・タゴールまでのブ

ラフモ・サマーヅを対象にした研究。ただし、付録の年表は1941年の詩人タゴールの死までをカバーしており、ブラフモ・サマーヅの軌跡の概要が追えるものとなっている。

Ⅲ-02, 03は、山崎利男氏による、ローイの司法論を論じた未完成の研究。ローイはもっぱら宗教、社会改革者として論じてこられ、その多方面にわたる活動は背景に取り残されてきた憾みがあった。その経済面にはメスが入れられたが、イギリス支配の根幹に関わる司法制度面は、山崎氏のこの研究によってはじめて探求が始まったと言える記念碑的論文。

Ⅲ-04は、ローイの宗教への取り組みを再検討しようとした論文。ローイを福沢諭吉と対比させて論じた点が特色。

Ⅲ-05は、ローイを中心として、近世から近代にかけてのインドの宗教・社会改革運動を概観しようとした論文。ブラフモ・サマーヅの運動を中心に論じている。

### 【Manuscript (草稿)】

Manuscript 01は、ノボビダンの長老、ショティクマル・チャタジ氏が、生涯をかけ収集したブラフモ・サマーヅ関係の資料・文献コレクションの目録。

Manuscript 02は、ショティクマル・チャタジ氏の、タイプで打ったブラフモ・サマーヅ小史 (p.328/33、I-A参照)。現在は公刊されている。(注12を参照)

### 注

- (1) Masayuki Usuda, *Aswinikumar Datta's Role in the Political, Social and Cultural Life of Bengal* (Unpublished Ph.D. dissertation submitted to the University of Calcutta)。その核心部分の要約は、白田雅之『近代ベンガルにおけるナショナリズムと聖性』(東海大学出版会、2013) 第1章。
- (2) 白田雅之「タゴールと大倉邦彦」『大倉山論集』58、大倉精神文化研究所、2012、pp.9-14。
- (3) 清水茂『カイエ・アンティーム』土曜美術社出版販売、2022、p.51。

- (4) 武田清子『土着と背教：伝統的エトスとプロテスタント』新教出版社、1967、p.15。
- (5) 荒松雄「十九世紀におけるインドの改革運動」『岩波講座世界歴史21：近代8』岩波書店、1971、pp.509-529。
- (6) 板垣興一『アジアの民族主義と経済発展』東洋経済新報社、1962、pp.281-288。ブラフモ・サマージ運動は、第8章「インドのルネサンスと宗教改革」の第3節「宗教復興と改革運動の展開過程」の第1項として論じられている。
- (7) 白田雅之「インドにおけるイギリス統治時代の近代化と伝統回帰」『アジアのかたちの完成』（アジア人物史8）集英社、2022、pp.446-509(Ⅲ-05)。
- (8) アディ・ブラフモ・サマージにはデベンドロナト・タゴール、ノボビダンにはケショブ・シェーンという靈感に満ちたカリスマの指導者が存在したが、シャダロン・ブラフモ・サマージにはそうした指導者がいなかったため、ラームモーハン・ローイをことさらに祭り上げたのだ、というのがノボビダンのショティ・バブウの、いささか宗派的バイアスのかかったとも見える、うがった見方である。しかし、運動論から見れば、傾聴に値する考え方と思われる。
- (9) ラビーンドラナート・タゴール、我妻和男訳「ゴーラ」第三文明社版『タゴール著作集』第3巻、1982、pp.27-28。
- (10) ラーマクリシュナの言葉は、M (Mahendranath Gupta) 編の*Kathamrita*(邦訳：田中嫺玉訳『不滅の言葉 (コタムリト)』全5巻、ブイツーソリューション、星雲社(販売)、2011-2017)が有名だが、その刊行に遙か先立って、ケショブのイニシアティブで、1878年にParamahamser Uktiが上梓されている。両者の関係については、本コレクション I-D-29、G. C. Banerji, *Keshab Chandra and Ramkrishna*(1931) が、ノボビダン側の見解をまとめている。
- (11) クーチビハール婚姻/婚約は、ブラフモ・サマージを分裂させた、サマージ史上最大の争点であり、さまざまに論じられている。これを婚姻 (marriage) と見なし非難するのがシャダロン・ブラフモ・サマージ側であり、婚約 (betrothal) と主張して擁護するのがノボビダン側である。I-A-1 シブナト・シャストリのシャダロン側の通史と、I-A-2、3 プロシャントクマル・シェーンのノボビダン側の通史を比較してみると問題がどこにあったかを確認できよう。しかし、これらはいずれも当事者の見方であり、非当事者からする評価が必要である。その点、Kopf(I-A-4)、Damen(I-A-5)、Borthwick(I-D-8)などが参照されなければならない。

- (12) Satikumar Chatterji, *A Short History of the Brahma Samaj and Nababidhan*, Papyrus (Kalkata), 2018 (reprint).
- (13) 竹内啓二「ブランモ協会と近代インド精神の形成：デイヴィッド・コフの著作紹介」(我妻和男編『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会、2005所収)。
- (14) T. E. Slater, *Keshab Chandra Sen and the Brahma Samaj : Being a Brief Review of Indian Theism from 1830 to 1884 ; Together with Selections from Mr. Sen's Works*, London, 2018. 原版は、シェーンの表記が、Keshub Chunder Senと当時の綴りであり、1884年にMadrasから出版されている。
- (15) CiNii Books (大学図書館の総合目録データベース)には、110点のローイに関する書籍を挙げているが、重複も多く、実質100点ほどである。
- (16) Upendranath Ball, *A century of service : A survey of the services rendered by the Brahma Samaj in first hundred years*, the Centenary Committee of the Punjab Brahma Samaj, 1928.
- (17) 著者は、テロリストの息子のウラシュコル・ドットが、アリプル爆弾裁判(1908年)で終身流刑となりアンダマンへ送られたため、カルカッタ対岸のシブプル公共土木事業学校から辞職を余儀なくされた。1920年、釈放されたウラシュコルは気が触れていたが、歌声は素晴らしく、天上から降ってくるようだった、と〈ショティ・バブウ〉(前掲注8)は仰っておられた。  
また、著者がサンスクリット、英語に加えて、アラビア語、ペルシア語、ウルドゥー語にも通じた旧世代の知識人生き残りの一人であったことを、付け加えておく。
- (18) タゴールに次ぐ短編小説の名手といわれた同名の作家、Prabhatkumar Mukhopadhyay (1873-1932) とは別人。
- (19) 1875年、13歳の少年タゴールは、ヒンドゥ・メラの第9回大会で、はじめて公開の場において自作の詩を朗読した。それは愛国詩であった。白田雅之「タゴールとナショナリズム批判」『史学』文学部創設125年記念号(84-1~4)、三田史学会、2015、pp.112-113.

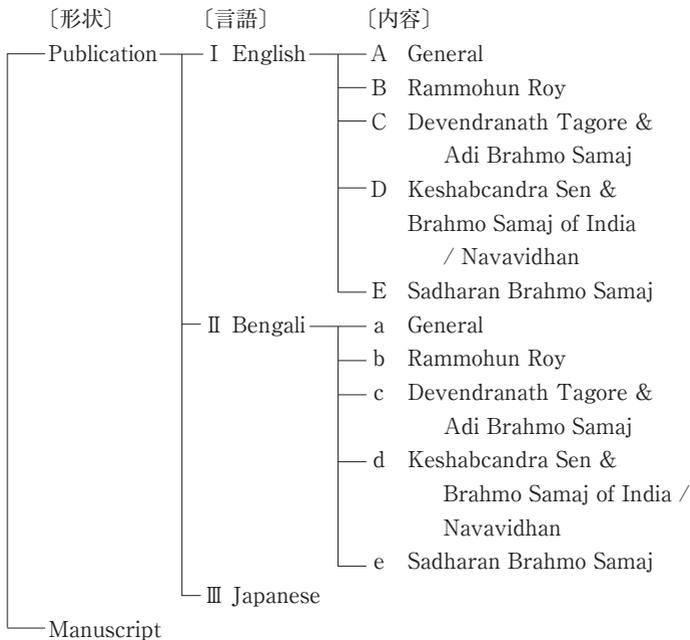
## ブラフモ・サマージ関係文献 目録

### 【凡例】

本目録は、白田雅之氏から公益財団法人大倉精神文化研究所附属図書館に寄贈された「ブラフモ・サマージ関係文献」183点の書誌目録である。

### 1. 分類

- 1) 関係文献は、〔形状〕—〔言語〕—〔内容〕の順で分類して、以下のように配列した。



- 2) 〔形状〕は2種に分類し、【Publication（書籍・パンフレット）】と【Manuscript（草稿）】とした。

- 3) つぎに【Publication（書籍・パンフレット）】を、使用されている〔言語〕により、以下の3種に分類した。

I English (英語文献)

II Bengali (ベンガル語文献)

III Japanese (日本語文献)

4) そして、I. English (英語文献) と II. Bengali (ベンガル語文献)

は、〔内容〕によって、以下の5種に分類した。

A/a General (ブラフモ・サマージ全体に関わる文献)

B/b Rammohun Roy (ラームモーハン・ローイに関わる文献)

C/c Devendranath Tagore & Adi Brahma Samaj (アデイ・ブラフモ・サマージに関わる文献)

D/d Keshabcandra Sen & Brahma Samaj of India / Navavidhan (ケシヨブ・シェーンとインド・ブラフモ・サマージ/ノボビダンに関わる文献)

E/e Sadharan Brahma Samaj (シャダロン・ブラフモ・サマージに関わる文献)

※ 英語文献は大文字 (A～E) で、ベンガル語文献は小文字 (a～e) で表記した。

※ Japanese (日本語文献) と【Manuscript (草稿)】は点数が少ないので、分類は行わなかった。

5) 各種内において、各項目の冒頭に通し番号を付した。

## 2. 各項目 (個別文献) の書誌情報

各項目 (個別文献) の書誌情報は、以下の通りの順序で明記した。

例) ① Hem Chandra Sarkar, ② *The Religion of the Brahma Samaj*,

③ 3<sup>rd</sup> ed., ④ Classic Press (Calcutta), ⑤ 1931, ⑥ 75 pages.

⑦ ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1906, 2<sup>nd</sup> ed. in 1911

① 著者名 (編者・翻訳者も含む)

➤ 原則として、標題紙や表紙の表記を採用した。

➤ 標題紙や表紙に表記されていないが、明らかに著者であると推定される場合、または WorldCat, CiNii 等の書誌データの著者

項目に記載されている場合は、[ ] で補って記載した。

- 編者は、編者名の後ろに (ed.) または (comp.) を付した。
- 翻訳者は、翻訳者名の後ろに (tr.) を付した。

## ② 書名

- 英語文献とベンガル語文献はイタリックで、日本語文献は『 』内に記載した。
- シリーズ名がある場合は、書名の後に ( ) で補った。
- 副書名、二つ目の副書名等がある場合は、「:」で区切って記載した。
- 巻数の表記は、アラビア数字で統一した。

## ③ 版

- 初版は表記せず、第2版以降の重版のみを記載した。なお、「2<sup>nd</sup> ed.」「3<sup>rd</sup> ed.」と略記した。
- 第2版以降の書籍で前版の出版年が確認できた場合は、補注で追記した。  
例) ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1906, 2<sup>nd</sup> ed. in 1911

## ④ 出版社／者・出版地

- 表記されていないが、WorldCat, CiNii等の書誌データに記載されている場合は、[ ] で補って記載した。
- 出版社が不明の場合は [publisher not identified] と表記した。
- 英語文献とベンガル語文献は、出版社／者の後に出版地を ( ) で記載した。
- 出版地の表記は、原則として現資料の表記通りとした。  
例) Calcutta, Kolkata
- ベンガル語文献の出版地が不明の場合は「Kolkata」と記載した。

## ⑤ 出版年

- 標題紙や表紙の表記、またはそれぞれの裏面に©マークがある場合はその表記を採用した。なお、序文等の記述から出版年を推定した場合は、[ ] で示した。

- ベンガル語文献は、基本的に「ベンガル暦」で表記されており、「ベンガル暦BS (西暦AD)」と表記した。ただし、ベンガル暦の正月は西暦の4月半ばに相当するため、出版月日が明示されていない場合は、西暦の2年にまたがることとなる。したがって、例えばベンガル暦1308年の場合は、「1308 BS (1901-02 AD)」となる。なお、サカ暦 (Saka) とブラフモ暦 (brahmabda) も、同様の表記順とした。
  - 出版年が不明な場合は、[no date] と記載した。
- ⑥ ページ数
- 表記は原則アラビア数字とし、ベンガル数字もアラビア数字に変換した。ただし、ローマ数字はそのままとした。
  - ページ付けが2本立て以上の場合、順に「,」で区切ってすべて記載した。
- ⑦ 補注
- 形状や前版の出版年など、文献資料に係る諸情報を、※を付して箇条書きで記した。

【Publication (書籍・パンフレット)】

I English (英語文献)

A General

01. Sivanath Sastri, *History of the Brahma Samaj*, 2<sup>nd</sup> ed., Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1974, xi, 642 pages.
02. Prosanto Kumar Sen, *Biography of a New Faith*, Vol.1, Thacker, Spink (Calcutta), 1950, xvi, 439 pages.
03. Prosanto Kumar Sen, *Biography of a New Faith*, Vol.2, Thacker, Spink (Calcutta), 1954, xvi, 449 pages.
04. David Kopf, *The Brahma Samaj and the Shaping of the Modern Indian Mind*, Princeton University Press (Princeton), 1979, xxiii, 399 pages.
05. F. L. Damen, *Crisis and Religious Renewal in the Brahma Samaj (1860-1884): A Documentary Study of the Emergence of the "New Dispensation" under Keshab Chandra Sen (Orientalia Lovaniensia Analecta, 9)*, Department Oriëntalistiek, Katholieke Universiteit Leuven (Leuven, Belgium), 1983, vii, 368 pages.
06. *Annual Report of the Indian Reform Association, 1870-71 & 1872*, [Indian Reform Association] (Calcutta), 1982, 273-442 pages.
07. Prosanto Kumar Sen, *The Centenary of the Brahma Somaj : An Appeal to the Brahma Public and to all Fellow-Theists*, [The Students Emporium] (Patna), 1927, iii, 49 pages.
08. *The All-India Temperance Conference : Fourteenth Session*, J. Niyogi (Calcutta), 1917, 59 pages.
09. Sivanath Sastri, *The Mission of the Brahma Samaj or the Theistic Church of Modern India*, 2<sup>nd</sup> ed., Kuntaline press (Calcutta), 1910, 108 pages.
10. Sitanath Tattvabhushan, Sadharan Brahma Samaj (India), *Brahma*

*Sadhan or Endeavour after the life divine*, 2<sup>nd</sup> ed., [Published by Devaprosad Mitra on behalf of] Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1971, v, 135 pages.

※ 1<sup>st</sup> ed. in 1916

11. Balwant Bhau Nagarkar, *The Message of the Brahma Samaj : Text of the Speech delivered by Prof. Balwant Bhau Nagarkar at the World Parliament of Religions held at Chicago in September 1893*, Navavidhan Chittabhinodini Trust (Bombay), [1976], 58 pages.
12. Benimadhav Das, *The Modern Theistic Movement in India (a Study in Character)*, The Brotherhood (Calcutta), [192-], 60 pages.
13. The All-India Theistic Conference, *Calcutta Session 1911*, A. C. Sarkar (Calcutta), [1911?], 147 pages.
14. Hem Chandra Sarkar, *The Religion of the Brahma Samaj*, 3<sup>rd</sup> ed., Classic Press (Calcutta), 1931, 75 pages.  
 ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1906, 2<sup>nd</sup> ed. in 1911
15. Satis Chandra Chakravarti and Sarojendra Nath Ray, *Brahma Samaj, the Depressed Classes and Untouchability*, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1933, ii, 87, 2 pages.
16. Dipankar Banerjee, *Brahma Samaj and North-East India*, Anamika Publishers & Distributors (New Delhi), 2006, 190 pages.
17. P. C. Mozoomdar, *Will the Brahma Somaj Last?*, The Brotherhood (Calcutta), 1913, 31 pages.
18. P. C. Mozoomdar, *The Faith and Progress of the Brahma Somaj*, 2<sup>nd</sup> ed., Navavidhan Publication Committee (Calcutta), 1934, vii, 209 pages.  
 ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1882
19. *Leaders of the Brahma Samaj : Being a Record of the Lives and Achievements of the Pioneers of the Brahma Movement : with Seven Portraits*, Mittal Publications (New Delhi), 2000, iv, 248 pages.

※ 1<sup>st</sup> ed. in 1926

20. *Leaders of the Brahma Samaj : Being a Record of the Lives and Achievements of the Pioneers of the Brahma Movement*, G. A. Natesan & Co. (Madras), 1926, iv, 248 pages.
21. Subhash Kanti Chakrabarti, *Role of Brahma Samaj in the History of Bengal*, Barnali (Calcutta), 1991, 56 pages.
22. Keiji Takeuchi, *The Philosophy of Brahma Samaj : Rammohun Roy and Devendranath Tagore*, Bookfront Publication Forum (Calcutta), 1997, xii, 163 pages.

## B Rammohun Roy

01. [Rammohun Roy], *The English Works of Raja Rammohun Roy*, Part 1, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1945, 57 pages.
02. [Rammohun Roy], *The English Works of Raja Rammohun Roy*, Part 2, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1946, 201 pages.
03. [Rammohun Roy], *The English Works of Raja Rammohun Roy*, Part 4, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1947, 135 pages.
04. [Rammohun Roy], *The English Works of Raja Rammohun Roy*, Part 5, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1948, 71 pages.
05. [Rammohun Roy], *The English Works of Raja Rammohun Roy*, Part 6, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1951, 97 pages.
06. Satis Chandra Chakravarti (ed.), Rammohun Roy Centenary Committee (ed.), *The Father of Modern India : Commemoration Volume of the Rammohun Roy Centenary Celebrations, 1933*, Rammohun Roy Centenary Committee (Calcutta), 1935, 572 pages.
07. [Upendra Nath Ball], *Rammohun Roy : a study of his life, works and thoughts*, U. Ray & sons (Calcutta), 1933, 345, vi pages.
08. Amiya Kumar Sen, *Raja Rammohun Roy : The Representative Man*, Calcutta Text Book Society (Calcutta), 1967, xviii, 450, 79 pages.

09. [Rammohun Roy], Bruce Carlisle Robertson (ed.), *The Essential Writings of Raja Rammohun Ray*, Oxford University Press, (Delhi), 1999, xxxix, 299 pages.
10. Brijendra Mohan Sankhdher, *Rammohan Roy : The Apostle of Indian Awakening : Some Contemporary Estimates*, Navrang (New Delhi), 1989, 223 pages.
11. Suresh K. Sharma (ed.), *Raja Rammohun Roy : An Apostle of Indian Awakening*, Vol.1, Mittal Publications (New Delhi), 2005, xii, 256 pages.
12. Suresh K. Sharma (ed.), *Raja Rammohun Roy : An Apostle of Indian Awakening*, Vol.2, Mittal Publications (New Delhi), 2005, ix, 264 pages.
13. Suresh K. Sharma (ed.), *Raja Rammohun Roy : An Apostle of Indian Awakening*, Vol.3, Mittal Publications (New Delhi), 2005, ix, 236 pages.
14. Jatindra Kumar Majumdar (ed.), *Raja Rammohun Roy and Progressive Movements in India : A selection from records <1775-1845>*, Art Press (Calcutta), 1941, cvi, 552 pages.
15. [Rammohun Roy], Rama Prasad Chanda (ed.), Jatindra Kumar Majumdar (ed.), *Raja Rammohun Roy : Letters and Documents*, Anmol Publications ([New Delhi]), [1987], lxxxix, 570 pages.
16. S. Cromwell Crawford, *Ram Mohan Roy : His Era and Ethics*, Arnold-Heinemann (New Delhi), 1984, 238 pages.
17. B. P. Barua (ed.), *Raja Rammohun Roy and the New Learning : Raja Rammohun Roy Memorial Lectures*, Orient Longman (Calcutta), 1988, viii, 123 pages.
18. Piyus Kanti Das, *Raja Rammohun Roy and Brahmoism*, Published by the author (Calcutta), 1970, 144 pages.
19. *Raja Rammohun Roy : Bi-Centenary Brochure*, Navavidhan Chitta-

- binodini Trust (Bombay), 1972, 45 pages.
20. [Rammohun Roy], *The English Works of Raja Rammohun Roy with an English Translation of "Tuhfatul Muwahhiddin"*, The Panini Office (Bahadurganj, Allahabad). 1906, xxix, 976 pages.
  21. M. C. Kotnala, *Raja Ram Mohun Roy and Indian Awakening*, Gitanjali Prakashan (New Delhi), 1975, 240 pages.
  22. Adrienne Moore, *Rammohun Roy and America*, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1942, xii, 190 pages.
  23. Iqbal Singh, *Rammohun Roy : A biographical inquiry into the making of modern India*, Vol. 2 & 3 (combined ed.), [2<sup>nd</sup> rev. ed.], Asia Publishing House (Bombay), 1987, xvi, 611 pages.
  24. Susobhan Chandra Sarkar (ed.), Socio-Economic Research Institute (comp.), *Rammohun Roy on Indian Economy*, Rare Book Publishing Syndicate (Calcutta), 1965, xvii, 98 pages.
  25. Saumyendranath Tagore, *Raja Rammohun Roy* (Builders of Modern India), Publications Division, Ministry of Information and Broadcasting, Government of India, (New Delhi), 1973, 112 pages.
  26. Mary Carpenter, *The Last Days in England of The Rajah Rammohun Roy*, The Rammohun Library and Free Reading-Room (Calcutta), 1915, xvii, 258 pages.
  27. Amal Home (comp. & ed.), *Rammohun Roy : The Man and His Work* (Centenary Publicity Booklet No.1), Rammohun Centenary Committee (Calcutta), 1933, vii, 162 pages.
  28. Saumyendranath Tagore, *Rammohun Roy : His Role in Indian Renaissance*, The Asiatic Society (Calcutta), 1975, viii, 101 pages.
  29. Sophia Dobson Collet, Hem Chandra Sarkar (ed.), *The Life and Letters of Raja Rammohun Roy*, 2<sup>nd</sup> ed., [Publisher not identified] (Calcutta), 1914, lxxxiv, 278 pages.

※ ページの順序が混乱した状態で製本されている。乱丁、落丁あり。

30. V. C. Joshi (ed.), *Rammohun Roy and the Process of Modernization in India*, Vikas Publishing House (Delhi), 1975, vi, 234 pages.
31. H. C. E. Zacharias, *Renasant India : Raja Rammohan Roy to Mahatma Gandhi*, Akashdeep Publishing House (Delhi), 1988, 304 pages.
32. [Rammohun Roy], Stephen N. Hay (ed.), *Dialogue between a Theist and an Idolater : Brahma Pauttalik Samvad : An 1820 Tract Probably by Rammohun Roy*, Firma K. L. Mukhopadhyay (Calcutta), 1963, iv, 200 pages.
33. [Rammohun Roy], Nihiles Guha (tr.), *The Complete Songs of Rammohun Roy*, Writers Workshop (Calcutta), 1973, 72 pages.

#### C Devendranath Tagore & Adi Brahma Samaj

01. [Devendranath Tagore], Satyendranath Tagore and Indira Devi (tr.), *The Autobiography of Maharshi Devendranath Tagore*, Macmillan (London), 1914, xlii, 295 pages.
02. [Debendranātha Ṭhākura], Hem Chandra Sarkar (tr.), *Brahmo Dharma of Maharshi Debendranath Tagore* (Brahmo Classics), H. C. Sarkar (Calcutta), 1928, xiii, 244 pages.
03. Narayan Chaudhuri, *Maharshi Devendranath Tagore* (Makers of Indian Literature), Sahitya Akademi (New Delhi), 1973, 74 pages.

#### D Keshabcandra Sen & Brahma Samaj of India / Navavidhan

01. Keshub Chunder Sen, *Lectures in India*, Navavidhan Publication Committee (Calcutta), 1954, xi, 551 pages.
02. Dwijadas Datta, *Behold the Man or Keshub and the Sadharan Brahma Somaj : a confession*, [Dwijadas Datta] (Calcutta), 1930, xvii, 289 pages.
03. Gopal Chandra Banerji (comp.), *Brahmananda Keshub Chunder*

- Sen : “*Testimonies in memoriam*”, Vol.1, G. C. Banerji (Allahabad), 1934, ii, 362, 135, xiii pages.
04. Gopal Chandra Banerji (comp.), *Brahmananda Keshub Chunder Sen : “Testimonies in memoriam”*, Vol.2, G. C. Banerji (Allahabad), 1937, vii, 486, 51, vi pages.
05. [Keshub Chunder Sen], Prem Sundar Basu (comp.), *Life and Works of Brahmananda Keshav*, 2<sup>nd</sup> ed., Navavidhan Publication Committee (Calcutta), 1940, viii, 591 pages.
06. *Keshub Chunder Sen in England (A Writers Workshop greybird book)*, 4<sup>th</sup> Navavidhan centenary ed. Writers Workshop (Calcutta), 1980, xix, 522 pages.
- ※ 1<sup>st</sup> English ed. in 1871
07. Keshub Chunder Sen, Jamini Kanta Koar (tr.), *Jeevan Veda : being sixteen discourses in Bengali on life, its divine dynamics*, 3<sup>rd</sup> ed., Nababidhan Trust (Calcutta), 1969, xxii, 153, x pages.
08. Meredith Borthwick, *Keshub Chunder Sen : A Search for Cultural Synthesis*, Minerva Associates (Calcutta), 1977, ix, 243 pages.
09. [Keshub Chunder Sen], V. Rai (tr.), *The Bible of Life, being an English translation of Minister Keshub Chunder Sen’s “Jivana-Veda” or Spiritual Autobiography*, [V. Rai] (Giridih), 1928, 123 pages.
10. Sati Kumar Chatterji, *The Bharat Asram : First Nation-Building Endeavour in India*, Navavidhan Trust (Calcutta), 1979, 35 pages.
11. Keshub Chunder Sen, Jamini Kanta Koar (tr.), *Sadhusamagama : discourses on Pilgrimage to Prophets (in Bengali)*, Navavidhan Publication Committee (Calcutta), [1956], xix, 76 pages.
12. Keshub Chunder Sen, Jamini Kanta Koar (tr.), *Brahmagitopanishat : Discourses on Yoga and Bhakti (in Bengali)*, Navavidhan Publication Committee (Calcutta), [no date], ix, 253 pages.
13. *Navavidhan (The New Dispensation)*, Vol.36 (New Series Vol.24)

No.21 : June 13, 1929 ~ No.47 : Dec. 26, 1929, Navavidhan (Calcutta).

※ 雑誌を合冊製本したもの

14. *Navavidhan (The New Dispensation)*, Vol.36 ((New Series Vol.30) No.1 : January 3, 1935 ~ No.38 : October 3, 1935, Navavidhan (Calcutta).

※ 雑誌を合冊製本したもの

※ リスト No.13は1929年に出版され、リスト No.14は1935年に出版されているが、ともに Vol.36となっている。原因は不明。(New Seriesとしては Vol.24と Vol.30)

15. [Keshub Chunder Sen], *The Brahmō somaj : The New Dispensation or the religion of Harmony. Compiled from Keshub Chunder Sen's Writings*, Bidhan Press (Calcutta), 1903, v, 308 pages.
16. [Prosanto Kumar Sen], *Keshub Chunder Sen and the Cooch Behar Betrothal, 1878*, Book Company (Calcutta), 1933, 40 pages.
17. Pratap Chandra Mozoomdar, *The Life and Teachings of Keshub Chunder Sen*, 3<sup>rd</sup> ed., Nababidhan Trust (Calcutta), 1931, xvi, 359, 2 pages.
18. *Divine Worship*, Navavidhan Centenary Celebrations Committee (Calcutta), 1980, 29 pages.
19. Keshub Chunder Sen, *The Brahmō Somaj : Discourses and Writings*, Part 1, 2<sup>nd</sup> ed., Brahmō Tract Society (Calcutta), 1917, 96 pages.
20. [Keshub Chunder Sen], *Selected Prayers of Keshub Chunder Sen*, Chita Vinodini Trust (Bombay), [no date], 68 pages.
21. Keshub Chunder Sen, *The Brahmō Somaj : The New Dispensation*, Vol.2, 2<sup>nd</sup> ed., Brahmō Tract Society (Calcutta), 1916, iii, 274, iv pages.
22. [Keshub Chunder Sen], *The Brahmō Somaj : Keshub Chunder Sen's Lectures in India*, 2<sup>nd</sup> ed., The Brahmō Tract Society (Calcutta), 1886, 474 pages.

23. Pratap Chandra Mozoomdar, *The Spirit of God*, Braja Gopal Niyogi (Calcutta), 1918, 296 pages.
24. Gour Govind Roy, Jamini Kanta Koar (tr. [translated from Bengali]), *Keshub's Religion of Inspiration*, [Bhagwandas D. Gurbaxani for the Sind Navavidhan Mission Trust] ([Bombay]), [197-], xvi, 223, v pages.
25. Nirvarpriya Ghosh, *The Evolution of Navavidhan (Samanwaya Series)*, Navavidhan Press (Calcutta), 1930, v, 174 pages.
26. Kripalsingh, *Outpourings of an Intoxicated Soul*, 2<sup>nd</sup> enlarged ed., Navavidhan Mission Trust (Bombay), [1956], xvi, 58 pages.
27. Sati Kumar Chatterji, *Behold the Man*, 3<sup>rd</sup> ed., Navavidhan Trust (Calcutta), 1977, 17 pages.
28. *Classified List of Publications*, Navavidhan Publication Committee (Calcutta), 1957, 16 pages.
29. Gopal Chandra Banerji, *Keshab Chandra and Ramkrishna*, [Printed by K. Mitra] ([Allahabad]), 1931, iii, iv, iii, 402 pages.
30. Gopal Chandra Banerji, *Keshub as seen by his Opponents : a Series of Confessions (Behold the man series)*, [K. Mitra at The Indian Press] (Allahabad), 1930, 131, lxiv pages.
31. [Mohit Chandra Sen], *Mohit Chandra Sen : Birth Centenary Publication*, Nababidhan Trust (Calcutta), 1969, vii, 176, 91 pages.

#### E Sadharan Brahma Samaj

01. Siva Nath Sastri, Rajani Kanta Das (tr.), *Self=Examination : a collection of short religious discourses*, Sadharan Brahma Samaj (Calcutta), 1953, xiii, 130 pages.
02. Hemchandra Sarkar, *Sivanath Sastri*, Rammohun Roy Publication Society (Calcutta), 1929, 82 pages.
03. B. N. Motiwala, *The Romance of a Great Indian Social Servant or*

*the Life & Career of Mr. Sasipada Banerji (The social service league, Bombay)*, 2<sup>nd</sup> ed., Devalaya Association (Calcutta), [1916], iv, 50 pages.

04. [Albion Rajkumar Banerji], *An Indian Pathfinder : [being the memoirs of Sevabrata Sasipada Banerji, 1840-1924]*, [Kemp Hall Press (Oxford)], [1934], 143 pages.
05. Amalendu Prasad Mookerjee, *Social and Political Ideas of Bipin Chandra Pal*, Minerva Associates Publications (Calcutta), 1974, xii, 184 pages.
06. Bipinchandra Pal, *Character Sketches*, Yugayatri Prakashak (Calcutta), 1957, 263 pages.
07. Bipinchandra Pal, *Bengal Vaishnavism ; with a foreword by Hirendranath Datta, Vedanta-ratna*, 2<sup>nd</sup> ed., Yugayatri Prakashak (Calcutta), 1962, ii, 132 pages.
08. Susil Kumar Datta, *Religion & Truth : Being the substance of a sermon preached in the Sadharan Brahma Samaj Mandir, Calcutta, on July 31, 1938*. [Sadharan Brahma Samaj] (Calcutta), 1938, 11 pages.
09. Haridas Mukherjee, Uma Mukherjee, *Bipin Chandra Pal and India's Struggle for Swaraj*, K. L. Mukhopadhyay (Calcutta), 1958, xii, 140 pages.

## II Bengali (ベンガル語文献)

### a General

01. *Purbba Bangala Brahma Sammilani* (after 1939 the title was changed to *Bangala o Asam Brahma Sammilani*), Amarcandra Bhattacharyya (Dhaka), 1938, 1939-40, 1947-48, 1950, 1951-52 & 1952-53, 1953-54 & 1955-56, 1956, 27, 137, 31, 171-186, 43, 24, 37, 3, 7, 8, 19, 68, 14, 4, 4, 4, 4, 20, 44, 34-44, 5-8, 25, 26, 6, 20, 3 pages.

02. Hemlata Sarkar, *Swargiya Brajasundar Mitra*, Prianath Bhattacharyya, 1915, (Kalikata), 470 pages.

**b Rammohan Ray**

01. [Rammohon Ray], *Rammohan Rayer Granthabali*, Rajnarayan Basu (Kolkata), [1880], 33-836 pages.
02. Dilip Kumar Biswas, *Rammohan Samiksa*, Sarasvat Library (Kalikata), 1983, 649 pages.
03. Nagendranath Cattopadhyay, *Mahatma Raja Rammohan Ray ebam Dharma, Samaj, Rajniti prabhriti bishaye tanhar Upadesh o Matamata*, Dey's Publishing (Kolkata), 1381 BS (1974 AD), 19, 393 pages.  
※ 1<sup>st</sup> ed. in 1288 BS (1881-82 AD)
04. Prabhat Kumar Mukhopadhyay, *Rammohan o Tatkalin Samaj o Sahitya*, Bisva Bharati Granthan Bibhag (Kolkata), 1972, 495 pages.
05. Nagendranath Cattopadhyay, *Mahatma Raja Rammohan Ray ebam Dharma Samaj, Rajniti prabhriti bishaye tanhar Upadesh o Matamata*, 4<sup>th</sup> enlarged ed., Indian Publishing House (Kolkata), [no date], 743 pages.  
※ 1<sup>st</sup> ed. in 1288 BS (1881-82 AD), 3<sup>rd</sup> ed. in 1897 AD

**c Devendranath Tagore & Adi Brahma Samaj**

01. Ajitkumar Cakrabartti, *Maharshi Devendranath Thakur*, Indian Press (Kalikata), 1916, 5, 4, 50, 740 pages.
02. Bhabasindhu Datta, *Maharshi Devendranath Thakurer Jibancarita*, Brahmamishan Press (Kalikata), 1321 BS (1915 AD), 4, 412 pages.
03. Devendranath Thakur, *Brahmadharmer Byakhyan*, Adi Brahma Samaj Yantra (Kalikata), Saka 1807 (1885 AD), 3, 58 pages.
04. Devendranath Thakur, *Byakhyaner Parishista*, Adi Brahma Samaj

Yantra (Kalikata), Saka 1807 (1885 AD), 24 pages.

※ 最終ページのページ数が22と印刷されているが誤植。

5. Kshtindranath Thakur, *Dwarkanatu Thakurer Jibancarita*, Rabindra-bharati Biswabidyalay (Kalikata), 1376 BS (1969-70 AD), 12, 243 pages.
6. Sharaccandra Caudhuri, *Svargata Debatma, Maharshi Devendranath Thakurer Karmma-Jiban*, Prakashcandra Caudhuri (Delhi), 1322 BS (1915 AD), 8, 231 pages.
7. Rajnarayan Basu, *Rajnarayan Basur Atmacarita*, Samya Press (Kalikata), 1319 BS (1912 AD), 6, 219 pages.
8. Rajnarayan Basu, *Amader Shiksha o Samaj*, Kyalkata Pablihsars (Calcutta), 1971, 25, 55 pages.
9. Rajnarayan Basu, *Rajnarayan Basur Baktrita*, Valmiki Press (Kalikata), Saka 1793 (1871 AD), 112 pages.
10. Yogeshcandra Bagal, *Hindu Melar Itibritta*, new ed., Maitri (Kalikata), 1968, 14, 155 pages.  
 ※ 1<sup>st</sup> ed. under the title of *Jatiyatar Nabamantra ba Hindumelar Itibritta* in 1362 BS (1955 AD)
11. *Brahmasangita*, Rabindrasadan (Calcutta), [no date], 63 pages.
12. Nabendu Sen, *Gadyashilpi Aksaykumar Datta o Debendranath Thakur*, Jijnasa (Kalikata), 1971, 22, 354 pages.
13. Dvijendranath Thakur, *Acaryyer Upadesh*, Vol.2 Adi Brahmasamaj Yantra (Kalikata), 1308 BS (1901 AD), 61 pages.
14. Asru Kole, *Rajnarayan Basu : Jiban o Sahitya*, Jijnasa (Kalikata), 1975, 11, 496 pages.

#### d Keshabcandra Sen & Brahmo Samaj of India / Navavidhan

01. Upadhyay Gaugobinda Ray, *Acarya Keshabcandra (Keshabshabarshiki-Allahabad Series)*, Vol.1, Navavidhan Press (Kalikata),

- 1938, 8, 704 pages.
02. Upadhyay Gaurgobinda Ray, *Acarya Keshabcandra (Keshabshatbarshiki-Allahabad Series)*, Vol.2, Navavidhan Press (Kalikata), 1938, 2, 705-1436 pages.
03. Upadhyay Gaurgobinda Ray, *Acarya Keshabcandra (Keshabshatbarshiki-Allahabad Series)*, Vol.3, Navavidhan Press (Kalikata), 1938, 2, 1437-2302 pages.
04. Bhai Pyarimohan Caudhuri, *Satya-Ratna*, Navavidhan Press (Kalikata), 1952, 2, 117 pages.
05. Girijashankar Ray Caudhuri, *Keshabcandrer Mritudin Smarane*, Navavidhan Press (Kalikata), 1956, 11 pages.
06. Keshabcandra Sen, *Jibanveda*, Navavidhan Publishing Committee (Kalikata), [no date], 14, 160 pages.
07. Prabhat Basu, *Maharani Sucaru Debir Jiban Kahini*, Prabhat Basu (Kalikata), 1369 BS (1962 AD), 12, 343 pages.
08. Jhara Basu, *Unisha Shataker Bangala Sahitye Keshabcandra*, Jijnasa (Kalikata), 1980, 3, 10, 284 pages.
09. Satikumar Cattopadhyay, *Samanbay Marga*, M. C. Sarkar & Sons (Kalikata), 1367 BS (1961 AD), 416 pages.
10. *Brahmananda Srikeshabcandra Sen*, Navavidhan Publishing Society (Kalikata), [no date], 12 pages.
11. Brahmananda Keshabcandra Sen, *Acaryyer Upadesh*, Vol.8, Brahma Tract Society (Kalikata), 1918, 3, 267 pages.
12. Arunprakash Bandyopadhyay, *Jiban-Veder Paricay*, Sangha Publication Society (Kalikata), 1919, 44 pages.
13. Ciranjib Sharmma, *Keshab-Carita*, [Publisher not identified], 1931, 8, 428 pages.

※ 1<sup>st</sup> ed. in 1897

※ 標題紙が欠落

14. Brahmananda Keshabcandra Sen, *Brahmagitopanishat*, 6<sup>th</sup> ed., Navavidhan Publishing Committee (Kalikata), 1966, 4, 20, 312 pages.
15. Girishcandra Nag, *Brahmananda Keshabcandra Sen o tanhar Mahattba*, published by author (Kalikata), 1939, 192 pages.
16. Pratapcandra Majumdar, *Stricaritra*, 3<sup>rd</sup> ed., Navavidhan Publishing Committee (Kalikata), 1936, 8, 171 pages.
17. Sharatkumar Ray (ed.), *Sadhu Pramathalal*, Navavidhan Asram (Kalikata), 1933, 2, 57 pages.
18. Yogendranath Gupta, *Keshabcandra o Banga-Sahitya*, Indian Publishing House (Kalikata), 1343 BS (1936-37 AD), 12, 337, 12 pages.
19. *Sloka Samgraha*, 8<sup>th</sup> enlarged ed., Navavidhan Publication Committee (Kalikata), 1958, 10, 468 pages.
20. Girishcandra Sen, *Tapasmala*, Vol.4, 10<sup>th</sup> ed., Navavidhan Publication Committee (Kalikata), 1950, 87 pages.  
 ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1881
21. Aghornath Gupta, *Bhaktamala*, Navavidhan Publication Committee (Kalikata), 1366 BS (1960 AD), 3, 112 pages.
22. Aghornath Gupta, *Shakyamunicarita o Nirbanatattwa*, 4<sup>th</sup> ed., Navavidhan Publication Committee (Kalikata), 1364 BS (1957-58 AD), 27, 269 pages.
23. *Upasana-Pranali*, Bharatbarsiya Brahmmandir (Kalikata), 1958, 33 pages.
24. Shudangshu Bikashini Debi, *Brahmananda Keshabcandrer Amritamay Bani*, Debendranath Bandyopadhyay (Kalikata), 1940, 180 pages.
25. Keshabcandra Sen, Pyarimohan Caudhuri (comp.), *Pratima*, Navavidhan Press (Kalikata), 1958, 55 pages.
26. Yogendranath Gupta, *Keshabcandra o Sekaler Samaj*, Readers Corner (Kalikata), 1965, 12, 128 pages.

27. Keshabcandra Sen, *Acaryyer Upadesh*, Vol.10, Brahma Tract Society (Kalikata), 6, 382 pages.
28. Keshabcandra Sen, *Prarthana*, Navavidhan Press (Kalikata), 1850 Saka (1928 AD), 2, 73 pages.
29. Brahmananda Keshabcandra Sen, *Adhibeshan*, Brahma Tract Society (Kalikata), 1913, 6, 167 pages.

e Sadharan Brahmo Samaj

01. Haridas Namananda (comp.), *Swadesh-Premik Ramakanta Ray*, Cakrabarti & Chatterji (Kalikata), 1357 BS (1950 AD), 6, 211 pages.
02. *Swargiya Umeshcandra Datta : Smriti Shraddhanjali*, Amiya Kumar Datta (Kalikata), 1941, 6, 4, 424 pages.
03. Krishnakumar Mitra, *Atmacarita*, Sadharan Brahmasamaj (Kalikata), 1975, 351 pages.  
※ 1<sup>st</sup> ed. in 1937
04. Hemlata Debi, *Pandit Shibanath Shastrir Jiban-Carita*, New Era Publishing House (Kalikata), 1327 BS (1920-21 AD), 5, 350, 32 pages.
05. Bipin Candra Pal, *Sahitya o Sadhana*, Yugayatri Prakashak (Kalikata), 1959, 174, 184 pages.
06. Shibanath Shastri, *Himadri-Kusum*, Somprakash Depository (Kalikata), 1887, 2, 168 pages.
07. Sarojnath Mukhopadhyay, *Sharatkumar Lahiri o Banger Bartaman Yug*, S. K. Lahiri (Calcutta), 1917, 7, 332 pages.
08. Shibanath Shastri, *Atmacarita*, Signet Press (Kalkata), 1359 BS (1952 AD), 299 pages.
09. Shibanath Shastri, *Prabandhabali* Vol.1, Antahpur Press (Kalikata), 1311 BS (1904-05 AD), 172, 119, 94 pages.

※ 次の◆2点が本編と合冊されている。

- ◆ Buddhadeb Basu, *Hathat-Alor Jhalkani*, enlarged 2<sup>nd</sup> ed., Gupta Friends (Kalikata), 1946, 119 pages.  
 ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1935
- ◆ Prabodhakumar Sanyal, *Paye Hanta Patha*, Sri Publishing Company (Kalikata), 1946, 94 pages.
- 10. Dineshcandra Cattopadhyay (ed.), *Bijnani Rishi Jagadishcandra*, Bidyoday Library (Kalikata), 1365 BS (1958 AD), 14, 250 pages.
- 11. Jagadbandhu Maitra, *Bijayakrihna Goswami*, Published by author (Kalikata), 1318 BS (1911 AD), 16, 455, 9 pages.
- 12. Kuladananda Brahmachari, *Shrishri Sadgurusanga*, Vol.4, Mahananda Nandi (Kalikata), 1925, 8, 235 pages.
- 13. Kuladananda Brahmachari, *Shrishri Sadgurusanga*, Vol.2, 3<sup>rd</sup> ed., Bisvanath Bandyopadhyay (Puri, Orissa), 1359 BS (1952 AD), 192 pages.
- 14. Shibanath Shastri, *Shibanath Upanyassamagra*, Vol.1, Sahitya Lok (Kolkata), 1986, 8, 251 pages.
- 15. Shibanath Shastri, *Shibanath Upanyassamagra*, Vol.2, Sahitya Lok (Kolkata), 1987, 9, 388 pages.
- 16. Bipincandra Pal, *Caritra-citra*, 2<sup>nd</sup> ed., Yugayatri Prakashak (Kalikata), 1970, 248 pages.  
 ※ 1<sup>st</sup> ed. in 1958
- 17. Praphullakumar Das, *Shibanath Shastrir prakashita Baktrita o Smaraklipi*, Firma K. L. Mukhopadhyay (Kalikata), 1975, 11, 85 pages.
- 18. *Sadhanashramer Itibritta : 1892-1951*, Shadhan Ashram (Kalikata), 1952, 7, 195 pages.
- 19. Bipincandra Pal, *Jeler Khata*, 3<sup>rd</sup> ed., Yugayatri Prakashak (Kalikata), 1970, 128 pages.
- 20. *Satprasanga : Sadharan Brahmasamajer Pustak Pracar Bibhager purbbe prakashit katipay Prabandha*, Sadharan Brahmasamajer Pus-

- tak Pracar Bibhag (Kalikata), 56 Brahmabda (1884 AD), 36 pages.
21. Bankabihari Kar, *Purbba Bangala Brahmasamajer Itibritta*, Purbba Bangala Brahmasamaj (Kolkata), 1951, 9, 206 pages.
  22. Shibanath Shastri, *Meja Bau*, 22<sup>nd</sup> ed., Gurudas Cattopadhyay & Sons (Kalikata), [no date], 107 pages.
  23. Shibadas Cakrabarti, *Bipincandra Pal : Jiban, Sahitya o Sadhana*, Calantika Prakashak (Kalikata), 1973, 14, 52, 485 pages.
  24. Bijaykrishna Goswami, *Shrimadacaryya Bijaykrishna Goswami Mahashayer Bakrita o Upadesh*, Genderiya Ashram (Dhaka), 1317 BS (1910-11 AD), 161 pages.
  25. Amritlal Sen Gupta, *Shrimadacaryya Prabhupad Bijaykrishna Goswami : Sadhana o Upadesh*, Das Gupta (Kalikata), 1322 BS (1915 AD), 11, 636 pages.
  26. Krishnakumar Mitra, Shibendranarayann Shastri (comp.), *Bangalar Nari-Nigraha*, Vol.1, "Bangalar Paribalik Itihas" Karyyalay (Kalikata), [no date], 14, 218, 8 pages.
- ※ ベンガル暦1330 - 1331年 (西暦1923 - 1925年)になされた講話の記録
27. Brahmasangita Shikshakendra (comp.), *Brahmasangita-sangkalan*, Brahmasangita Shikshakendra (Kalikata), 1382 BS (1976 AD), 11, 80 pages.
  28. Shanta Debi, Bharata-Muktisandhak, *Ramananda Cottopadhyay o Arddhashatabdir Bangla*, Prabasi Press (Kalikata), [no date : most probably 1945], 14, 302 pages.

### Ⅲ Japanese (日本語文献)

01. 竹内啓二、『近代インド思想の源流：ラムモホン・ライの宗教・社会改革』、評論社、1991、267ページ
02. 山崎利男、「ラームモハン＝ローイの司法制度論」(一)、(『東洋文

化研究所紀要』第64冊、1974、抜刷)

03. 山崎利男、「ラームモーハン＝ローイの司法制度論」(二)、(『東洋文化研究所紀要』第66号、1975、抜刷)

※ 第66号は第66冊の誤植

04. 白田雅之、「英領インドにおける『宗教』領域の問題性：ラームモーハン・ローイの再検討」、(『宗教研究』367号、2011、抜刷)

05. 白田雅之、「インドにおけるイギリス統治時代の近代化と伝統回帰」、(『アジアのかたちの完成』アジア人物史 8、集英社、2022、446-509ページ)

#### 【Manuscript (草稿)】

01. List of S. K. Chatterji Collection of Books, Letters etc.  
02. Sati Kumar Chatterji, A Short History of the Brahmo Samaj and its Evolution.